

意見陳述書(要旨)

2025年6月5日

東京地方裁判所立川支部 御中

本日は意見陳述の機会をいただきありがとうございます。

1 私は、小金井市立くりのみ保育園に5歳の次女を預けている保護者です。長女はくりのみ保育園卒園児の小学校三年生、長男は1歳で、現在は自宅保育をしています。

次女がくりのみ保育園に入園した時点では、公立保育園の廃園や段階的縮小という言葉は一切ありませんでした。その後、小金井市の前市長が行った廃園条例の専決処分が出されましたが、裁判が起こされ、廃園条例が無効であり、処分も違法であるとの判決が下されたことで、公立保育園の廃園は阻止されたものだと思っていました。しかしながら、廃園条例を撤回することなく、裁判で勝訴した家庭のお子さんのみを入園させるという小金井市の前代未聞の対応に、強い憤りを感じています。

2 廃園条例が無効と判断されて1年以上経ちますが、今でもくりのみ保育園の募集が再開されず、とても不安な日々を過ごしています。くりのみ保育園の募集が再開されていないことで受ける被害について話します。

まず、長男が、毎日次女の送り迎えで通った慣れ親しんだ保育園に通うことがで

きないということです。1歳の長男は、園庭解放では、のびのびと遊ぶことができ、保護者懇談会の際は、大人が懇談している横で、落ち着いて遊ぶことが出来ます。この姿から、毎日すれ違う先生と交わすちょっとしたコミュニケーションを通して、長男は保育園に対して親しみと安心感を得ていることが分かります。このまま募集が再開されなければ、長男は、こんなにも安心でき、親しみをもって「ぼくもいつか、ねえねのようにここにかようんだ」という自分が通う姿を想像することができる保育園ではなく、全く知らない環境に入らなければならないこととなります。親として、平日の1日の半分を過ごす保育園は本人が安心できる場所であってほしいという思いがあります。

また、くりのみ保育園の募集が再開していないため、長男を1歳児クラスに入園させることが出来ず、私自身が仕事に復帰出来ませんでした。このタイミングで仕事復帰をするには、次女と長男を別園に送迎しなければならざるを得ない状況になります。私の仕事は時短勤務にはできず、4月1日からフルタイムで働かなくてはなりません。長男の産育休に入る前、長女と次女を同じくりのみ保育園に送迎しながら働いていたときでも、18時のお迎え時刻ぎりぎりの毎日でした。そのことを思うと、別園に通わせることは考えられなかったので、育休を延長するという選択肢しかありませんでした。家計に多大な影響がありますが、子ども達への負担も考え、やむを得ない決断でした。

次に、長女と次女が心の拠り所としている帰る場所がなくなってしまうということです。小学校3年生になる長女は、次女のお迎えについて行くことがあります。そのときは、先生や後輩達から「久しぶりだね」「大きくなったね」「会えてうれしい」と声をかけてもらって自分の成長を喜ぶ姿があります。また、長女の学校での出来事で相談したいことがあり、長女の担任をしてくださっていたくりのみ保育園の先生に相談させてもらうことがありました。幼い頃のことを知っている先生からの助言は、初めての小学校での生活を乗り越えていく支えになりました。次女が卒園、入学を経て、差し掛かるかもしれない初めての困難を乗り越える上で支えと

なる帰る所がなくなってしまうのは、親にとっても子どもにとっても非常に不安なことです。

3 このような我が家の問題だけでなく、市の保育を支える公立保育園の存在をもっと大切に考えてほしいと思います。財政を理由に廃園を進めなければならないという話ですが、将来の日本を担う子ども達のためお金をかけないで何にお金をかけるのだろうと思います。

長男と公園で遊んだり、お散歩をしたりしていると、様々な保育園の子達と先生方が、お散歩する姿を見かけます。あるとき、高いところに上ってしまい、下りられなくなってしまった子どもが「せんせいたすけて」と大きな声で助けを求めているのに、近くにいた先生は「そのへっぴり腰おもしろい」と言いながら、写真を撮るだけで、「たすけないよ」と言ってその場を離れました。また、公園内で見つけた石や木の実を拾って先生に見せに来る子ども達に対して、「何その汚い手」と声をかけた先生もいました。そういった、私からすれば驚いて不安になってしまう対応をしていた先生は、偶然かもしれませんが全て私立保育園の先生でした。それに対して、くりのみ保育園の先生方は子ども達に対して、常に肯定的な声かけをしてくださいます。懇談会でも、そうおっしゃっていました。

また、数年前に小金井市内のある私立保育園で先生が突然一斉に辞職して保育が出来なくなってしまったときに、その保育園の児童を公立保育園が分担して受け入れたこともありました。市内にバランスよく多くの公立保育園が存在しているからこそできたことだと思います。

他にも、特別な支援が必要なお子さんが、私立保育園からは入園をことごとく断られ、公立保育園だけが体制を整えて受け入れてくれたという話も聞きました。

財政を理由に公立保育園を廃園させようとする市に対して、子ども達が安心して過ごせる環境や、子どもたちの心の成長のためのお金はなんとしても確保してほしいと憤りを感じます。

4 私は、幼稚園の頃から、小金井市に住んで育ってきました。緑があり、地域で子どもを見守る温かい雰囲気が好きで、自分の子ども達もこの環境で育てたいと強い思いがあり、長女が産まれる前に家を購入し、ずっとこの地で子育てをしてきました。一度も後悔したことはありません。近くにたくさんの公園があり、道でよちよち歩いていても、親切に避けて通ってくださる方がたくさんおられ、泣いていると優しく声をかけてくださる近所の方がおられ、行きやすい雰囲気の児童館や図書館もあります。子育てしやすい街を目指しているはずの小金井市が、子どもにとって素晴らしい環境の公立保育園を手放すことは全く理解できず、受け入れられず、もしこのまま廃園を迎えた際は、もっと子ども達のために計画的にお金を使う自治体に住めば良かったと、初めて後悔の気持ちが芽生えそうです。

この裁判を通じて私たちの声が市に届き、誠実な対応をしてくださることを祈って意見陳述とさせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。

以上